

みどりのゆび

諏訪中央病院グリーンボランティア通信 No.107号 2018年11月14日発行

世話人のつばやきーソクラテスからAIまで

先日、ムスカリ園の植え替えを皆さんの手で行いました。誰もが青紫の花を再び一面に咲かせてくれることを思い描いたと思います。少し大袈裟に言うと、生命の営みに関わっている喜びがありました。

さて、表題についてですが、ソクラテスは『幸福になることはよく生きること』と言いました。うまく生きるではなく『よく生きる』です。このよく生きるとは「自己の思いのままに生きる自由さ」とともに、心の持ち方として「人のために生きる」ことではないかと私は思っています。



グリーンボランティアに参加している私たちは、樹木を含めた草花が好きだという自由な気持ちと、庭の造形や手入れを通して、入院されている患者さんや治療に携わられている職員の皆さんに安らぎの場を少しでも提供出来たらいいなという気持ちの両方を持っているのではないかと思います。

一方、最近話題のAI（人工知能）ですが、過去のデータの統計を通して未来を瞬時に推測することに優れ、近い将来、現在の人間の仕事の約50%が取って代わられるだろうと言われています。人間の存在が危ぶまれることになりかねませんが、人間の創造性や人を思いやる多様な心の領域にはなかなか及ばない、人としてはその心の持ち方こそが大切になってくるのだと思います。

世話人としての私は不十分極まりないのですが、ボランティア活動ですから、できたらゆるやかな人間関係でありたいと願いますし、そのようにお許し頂きたいと思います。[金子（俊）]

病院祭

10月20日、開催された恒例の病院祭は今年も盛りだくさんの催物で賑わいました。グリーンボランティアも“こもれび”の前のテーブルで、朝摘んだフレッシュハーブのお茶と庭で採れたルバーブのジャムを乗せたクラッカーをお出しして、参加しました。袋詰めの乾燥ハーブと生のルバーブも少しですが、販売出来ました。土曜日でしたが10名のメンバーが参加してくださいました。有難うございました。[大日]

- ◎11月21日（水） 秋のバザー（10時～12時）（その後カレーのランチ）
- ◎12月5日（水） 後片付け（その後パエリアのランチ）

ハロウィン



今年の夏の暑さが影響した為か、皆が育てて下さったかぼちゃ、例年より少なめでしたが、10月24日のボランティア活動の日に入院患者さんも参加して頂き、カボチャランタンが出来上がりました。(もう少し人数が多ければ！とも思われました)

26日の金曜日、渋谷での若者たちの大騒ぎを他所に、中央病院のハロウィンは和やかに始まりました。年々、子供たちの可愛い仮装衣装も増え、カボチャスープは紙コップ数で400個を超えて、病院界限の方に定着してきた感じられます。[伊勢]

～～～参加者の声～～～

- ◎小6の子は最近母と出かけないことも増えてきましたが、ハロウィンは別！一緒に楽しいひとときが過ごせました。ありがとうございました。[小学校六年生のお母さん]
- ◎病院のハロウィンの雰囲気大好きです。ボランティアの皆さんが患者さんや子ども達にも優しく声をかけて下さり、温かい気持ちになれる場所です。みんなの仮装も楽しいですね。[3人の子どものお母さん]



コラム No.4 植物が好き

私は植物、なかでも樹木が好きだ。

ハーブ・ガーデンには、いくつかの珍しい樹がある。離れたところから見ると、樹形が美しかったり、また近寄って見ると、葉っぱ・花・実などにそれぞれ特徴があって面白い。

5月の中頃、白い花を枝いっぱい咲かせるヒトツバタゴ(別名なんじゃもんじゃ)。中庭の堂々としたシンボルツリー菩提樹(本誌105号に仲野さんの素敵な一文と写真あり)。桑の木の仲間の梶の木、秋のはじめの頃小さな赤いものをまとった実が落ちているのを見ると、あっ、これは梶の木だと気付かせてくれる、地味な樹だ。季節ごとに変化があって楽しみだ。



今、サンシュユ(山茱萸)が透きとおるような深い赤い色の実をつけていて、秋の深まりを感じさせてくれる。

植物の名前の表記はカタカナと決まっているようだ。図鑑や樹木の銘板には漢字も併記してほしいと思っている。漢字名にはその謂れなどがたくさん詰まっている。この夏、ベルガモットという真っ赤な草花を見た。松明花とも言うそう。この花は松明の先端から炎が吹き出しているような姿をしている。これなら私にも覚えられそう。漢字名には味がある。[篠田]